

Keiba Global Front Line



競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人を紹介致します

合田 直弘

4月3日から5日まで発売された、ケンタッキーダービー・フューチャーウェイジャーパート4で、個別の馬では1番人気に推されたシャーラタン(牡3)が、今月のこのコラムの主役である。フューチャーウェイジャーとは、端的に言えばケンタッキーダービーの前売り馬券のことだ。現段階で有力と目される23頭に馬番1番から23番が割り振られ、それ以外の馬が馬番24番にフィールドされて単勝馬券が発売されるのだが、ブックメーカーがオッズを掲げて発売するアンティポストベットと決定的に違うのは、日本の競馬ファンにもお馴染みのパリミュー・チュアル方式で発売される点にある。すなわち、期間を限定して単勝馬券を発売し、その間に売れた票数割りでオッズが算出されるのが、KYダービー・フューチャーウェイジャーなのだ。

冒頭で「個別の馬では」と断つたのは、オッズ4.4倍で1番人気になったのは、馬番24番だったから。すなわち、現段階で有力馬と目されている23頭以外から勝ち馬が出ると見たファンが、最も多かったのだ。そして、これに続くオッズ6.8倍の2番人気になったのが、馬番3番のシャーラタンだった。

G1ラトローナス(d8.5F)、G3シユヴィーH(d9F)の2重賞を制した他、G1BCディスタフ(d9F)3着などの実

績を残したオーセンティシティの2番仔として生まれたのがシャーラタンだ。父は6歳となつた04年にG1BCスプリント(d6F)を含む4重賞を制し、全米最優秀馬として選出されたスペイツタウンである。種牡馬としては、G1ドバイゴールデンシヤヒーン(d1200m)を制したレインアルドザウイザードのような、父の特性をダイレクトに受け継いだ馬、G1ジョキークラブゴールドC(d10F)を制したヘインズフィールドのような、距離の融通性があつた馬、G1ジャンプラ賞(芝1600m)を制したロードシャナキルのように、芝適性の高かつた馬まで、実に多彩な産駒を出している。そして日本でも、モズambiqueアガG1高松宮記念(芝1200m)を制したばかりである。

キーンランド9月1歳市場に上場されたシャーラタンは、ハーランズホリデイ、アシャド、ヒルダズパッショーンといったG1勝ち馬を所有したことと知られる、ジャック・ウルフ氏のスター・ライト・レーシングをはじめとしたパートナーシップに70万ドル(当時のレートで約7880万円)で購買され、西海岸の名門ボブ・バファート厩舎に入厩した。

じっくりと仕上げられたシャーラタンは、今年2月16日にサンタアニタで行われたダービー6Fのメイドンでデビュ。鞍上ドレイドン・ヴァンダイクのステッキが軽く

差を付けて緒戦勝ちを飾つて。この模様を、翌日のサラブレッドデイリー「ヨーク」が3歳の2月18日だつたことから、こそ、この段階からシャーラタンはファンの馬もケンタッキーダービーに間に合う注目を集める存在となつた。

更に強烈だつたのが2戦目で、3月14日に同じくサンタアニタで行われたダート8Fの条件戦に登場したシャーラタンは、ほどんど馬なりのまま2着以下に10.1/4馬身差を付ける圧勝劇を演じたのだ。5月2日に予定されていたケンタッキーダービーの、9月5日への延期が発表されたのが、その2日後の3月16日のことだつた。すなわち、キャリアの浅いこと、現段階でダービーポイントがゼロであることを、心配する必要がなくなつたのだ。

かくして、重賞を走つることもない馬が、ダービーの前売りで1番人気に推されることになつたのである。本来であればダービーが行われていたはずの5月2日に、オーロンパークで行われるG1アーカンソーダービー(d9F)に出走予定のシャーラタンに、日本の競馬ファンもぜひご注目いただきたい。